



あべ しょうご  
**安部 省吾**さん  
国東高等学校  
ガイドボランティアグループ



ふくまる やすひろ  
**福丸 靖博**さん  
有限会社 富来自動車(国東町富来浦)



左から4番目が父肇さん、靖博さん、妻 恵美子さん、母エミ子さん

安部 省吾さん(2年生)は、国見中学校の時の先生の影響で英語が好きになり、将来は国際的な仕事に就きたいと考えるようになりました。高校2年生の総合学習で、立命館アジア太平洋大学(以下「APU」)の外国の学生と交流できる授業があり、英語のコミュニケーション能力を伸ばす絶好の機会に恵まれました。そして、一緒に学習した同級生9名と英語版「ため池ガイドブック」の作成に取り組みました。6月にAPUの学生と初めて会った時は、自分から話しかけられず、学生から話しかけてもらってばかりでした。そこから回を重ねる毎に仲良くなり、英文のアドバイスをいただくことで、地域の伝統や風習などを分かりやすく表現したガイドブックを、11月末に完成させることができました。

省吾さんは、「総合学習では、自分の伸ばしたい能力に応じて、科目を選択できるので、私は海外留学せずに外国の方と頻りに交流することができました。多くの市内の中学生に国東高校に入学すれば夢が叶えられると思ってもらえるように、この貴重な経験を活かし自分の夢を実現したいです」と話していました。



佐藤 剛さんは、地元の国東町見地でミニトマトのハウス栽培をしていましたが、27歳の時に父の友人の行入寺住職に誘われ、秀溪園で施設利用者の農作業を支援する仕事に就きました。元来、農作業には自信がありましたが、障がいのある方へ作業内容をどう伝えて一緒に作業するのか分からず、試行錯誤が続きました。しかし、研修や勉強会で理解を深め、長時間にわたり一緒に作業をすることで、信頼関係を築くことができました。また、楽器を演奏するのが好きだったことから、21歳から国東神楽社に入り、笛や太鼓に加え、徐々に舞も踊るようになりました。

剛さんは、「今までは、利用者に作業を円滑に行ってもらおうことばかり考えていました。しかし、昨年の全国障害者芸術・文化祭のアート制作や神楽体験などを通じて、利用者が地域の方と関わりを深めたいことが分かり、その力になりたいと思っています。また、地元の神楽では、先輩から太鼓を引き継いでいる最中ですが、私達の世代で伝統を守れるようにしていきたいです」と話していました。



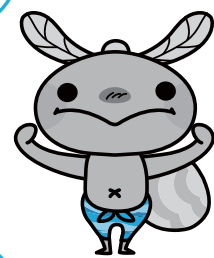
さとう つよし  
**佐藤 剛**さん  
社会福祉法人 秀溪園  
障がい福祉サービス事業所 秀溪園(武蔵町手野)



一緒に施設で作業している皆さん



こだま みか  
**小玉 美香**さん  
たまちゃんファーム(国東町小原)



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

# 国東の輝きひと

Vol.11

福丸 靖博さんは、父肇さんが設立した有限会社富来自動車の工場小さい頃から遊び、手伝いをしていたので、自然と跡を継ぐことを決意しました。平成8年、県外の専門学校で自動車整備の資格を取得した後、帰郷しました。当初は、先輩の整備の様子を見ながら技術を学び、次第に車検や不調車両の整備全般を任せられるようになりました。約20年前から自動車がコンピュータ制御されるようになり、自動車の故障原因も専用機器でデータ抽出しないと分からないようになってきました。そこで、毎年大分市内で開催される研修会に行き、市内でも数少ないコンピュータシステム診断ができる認定整備工場となり、その中心的役割を担っています。

靖博さんは、「5歳の息子は、昔の自分と同じ様に工場によく遊びに来ており、仕事のまねをよくしています。息子が大人になって跡を継ぎたいと思った時、会社を譲れるように、1つ1つの仕事を丁寧にし、お客様とのつながりを深めていきたいです」と話していました。



小玉 美香さんは、空き家バンクを利用して物件を探す中、たくさんある農地を利用して農業に挑戦したいと考えるようになりました。平成28年3月、大分市から国東町小原に移住し、空き家の改修と同時に、農地を借りて稲作を始めました。当初の目標は、教育講演家である夫の宏さんが宮崎県の棚田で食べた天日干しのお米の味を、化学肥料や農薬を使わずに再現することでした。近所のベテラン農家に指導してもらいながら、1年目は40アールを栽培しました。2年目からは中学生の農業体験を積極的に受け入れ、田植えと収穫の繁忙期に多くの生徒と一緒に作業してくれました。そして、今では栽培面積を、1ヘクタールまで増やすことができている。

美香さんは、「多くの人に農業に親しんでもらいたいので、農業のハードルを下げたいと考えています。そのためには、私達が農業を楽しんでいる姿を、フェイスブックや農業体験、夫の講演を通じて見て感じていただき、多くの方が自然に触れ、癒されるきっかけになればと考えています」と話していました。

